

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 058	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 酒匂川から流入する濁流が漁業環境や水産資源に及ぼす影響について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 ○ 平成22年9月の台風9号の豪雨により酒匂川から流れ込んだ大量のゴミや樹木、草等は 海岸や漁港、定置網に漂着し、漁業関係者に甚大な被害をもたらした。 ○ さらに、これらの土砂や樹木、草等は広い範囲で海岸や岩礁帯に堆積し、漁業生産活動の 障害になっているだけでなく、漁業環境や水産資源に悪影響を及ぼすことが懸念されている。 ○ 相模湾の漁場環境や水産資源の保全、回復の取組みの一環として、河川から流れ込んだ大量の泥が周辺海域の漁場環境や水産資源に及ぼす影響について把握する必要がある。 ○ そこで、酒匂川河口ならびにその周辺の沿岸海域の地先において、海水の濁り、海底の堆積物や底質、底棲生物、磯根の状況について調査を要望する。 ○ また、酒匂川水系の流域における泥の流れについて把握するため、水質並びに底質調査についても実施を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場、内水面試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 酒匂川濁流影響調査、アユ資源管理研究		
対応の内容等	平成22年9月に発生した台風9号に伴う豪雨災害の長期的影響を把握するため、酒匂川河口及びその周辺海域において底質、底生生物、磯根の状況等の調査を実施中です。平成22年台風9号による影響は、殆ど確認できなくなりましたが、酒匂川河口沖は台風等による出水により底質環境や底生生物相が変化しやすい海域であることが明らかとなりました。また、令和2～4年度は台風の襲来が無い年の底質環境も把握することができました。今後も、再び濁流等による大きな環境の変化が起きた場合に備え、調査を継続します。なお、酒匂川ではアユ産卵場調査や魚類相調査などの既存の調査において、pH、濁度などの水質調査及び粒度組成などの底質調査を行っており、その結果について情報提供を行ってまいります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			